

ハヤブサ

Falco peregrinus

ハヤブサ科・留鳥

名前の由来

速く飛ぶことから「速飛翼（はやとびつばさ）」→「速翼（はやつばさ）」→はやぶさ となった。

漢字名：隼



撮影：浦幌野鳥倶楽部

ハヤブサ

特定種

種の保存法：国内希少動植物種

国レッドリスト（2007）：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

北海道レッドデータ：絶滅危急種（Vu）

形態的特徴

全長（くちばしの先から尾の先まで）オス38cm、メス51cm。翼を開いたときの端から端の長さ84~120cm。カラスより少し小さい。

頭部から背面にかけて青灰色で、下面は白く腹は黄褐色を帯び、胸から腹には細かく黒い横スジもようがある。頬ひげ状のパッチが太く目立つ。

飛んでいる時、翼の端がとがって見える。

足は鮮やかに黄色い。

声：繁殖期以外はほとんど鳴かない。繁殖地では、オスが「キッキキッキ」と鋭く鳴き、メスが「ガッガッガッ」あるいは「ゲゲゲゲ」と少し濁った太い声で鳴く。警戒時にはオスメスともに激しく鳴き立てるといふ。

飛び方：浅く速い羽ばたきと短い滑空を交互にして速く飛ぶ。上昇気流に乗って輪を描くように飛ぶこともある。

飛んでいる鳥を上から急降下して捕らえる。

類似種と見分け方：チゴハヤブサ。

チゴハヤブサはハトくらいの大きさで、成鳥の胸から腹は縦スジもよう、下腹部が赤茶色。



頭の黒い部分が広い

横スジ

ハヤブサ。腹のもようは横スジ、頭から顔の黒い部分が広い



白色が上にくい込む

縦スジ

赤茶色の下腹

チゴハヤブサ。腹のもようは縦スジ、頭の黒い部分に白い部分がくい込む。下腹は赤茶色



撮影：叶内拓哉

ハヤブサの飛んでいる形。ハヤブサの仲間は翼の先がとがっている

生息環境・分布

海岸や海岸に近い山の断崖や急斜面、広大な水面のある地域や広い草原、原野など。

分布：南極圏と太平洋上の島の大部分を除き世界的に分布している。寒帯のものは熱帯に渡って越冬する。

日本では、北海道から九州北西部の島々にまで広く分布し、

特に東北地方と北海道の沿岸部に多いという（米川、1987）。北海道では留鳥。北海道全域に分布し、主に海岸の崖の多い地域に生息する。

十勝では留鳥として主に海岸の崖で繁殖している。内陸の崖のある場所で繁殖している例もある。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
十勝出現期												
繁殖												

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ

食性・他生物との関わり

多くはヒヨドリからハトくらいの鳥類を食べ、まれにネズミやウサギなども食べる。

崖の上や見晴らしのよい木などにとまって空間を見張り、鳥が飛んでいるのを見つけると飛び立って獲物より高く位置し、翼をすぼめ急降下して足で落とすという。(→興味深い話の項参照)

捕食者であり、食物連鎖の頂点にたつ種のひとつ。成長してしまえば他の生物に襲われることはあまりない。



ハクセキレイ（左矢印）とハヤブサ（右矢印）。襲う気配のない捕食者と逃げない餌のツーショット

繁殖生態

一夫一妻で繁殖する。

営巣場所は崖の岩棚などで、2～3月に産卵場所に執着しはじめる。つがいになわばりを持つ。繁殖期にはオスメスで空中ディスプレイ（誇示のための行動・動作）を行う。(→興味深い話の項参照)

自分で巣は作らず、海岸や海岸近くにある断崖の岩棚のくぼみに、砂泥や草の根などを足でかき出して産卵するという。

産卵期は3月下旬～4月下旬(東北地方以北)。1巣の卵数は3～4個。主にメスが卵を抱き、30～33日でふ化するという。ヒナが小さいうちはメスが抱き続ける。

ヒナへの給餌は主としてメスが行い、オスはヒナとメスのために餌を運ぶ。ふ化後15日くらいからメスも狩りを始め、メスが巣から離れるようになるとオスも給餌や抱雛など世話をを行うという。約2ヶ月で巣立つ。

興味深い話

■獲物を狙って急降下するときのスピードは、最大で時速400キロにもなるという。

■獲物を捕る際には1羽だけで行う場合と、つがいのオスメス共同で行う場合がある。さらに共同狩猟の場合はつがいが1つの獲物を交互に攻撃する場合と、オスメスそれぞれが獲物の群内の別個体を攻撃する場合があるという。

■婚姻のための空中ディスプレイ（誇示のための行動・動作）には、①翼を伸ばして円を描くように高空へ舞い上がるもの(単独またはつがいで)、②その後水平に飛んでからジグザグに急降下するもの(特にオスが単独で)、③巣の前で8の字を書いて飛び、巣の予定場所に鳴いて降りるもの(オスのみ)、④後を追って急上昇している相手めがけて

急降下したり、交互に襲撃するように近くをすり抜けたら、一緒に急降下したり、追いかけてきたり、相手が近づくと仰向けになったり、というつがいによる複雑なもの、などがあるという。

■抱卵の主導権はメスにあり、メスは交代を嫌がるのが少なくないという。

■オスは抱卵中のメスに餌を運ぶが、ほとんど巣から離れた場所で受け渡され、空中での受け渡しが多い。

■近年、都市などでも越冬している例も知られる様になった。

■十勝地方のアイヌ語では「チカケコイキヤ」という。

配慮事項

不明。

参考文献

「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」高野伸二 編、浜口哲一・森岡照明・叶内拓哉・蒲谷鶴彦 著、山と溪谷社 1985 (1995 2版21刷)
「原色日本野鳥生態図鑑(陸鳥編)」中村雅彦・中村登流、保育社 1995
「北海道鳥類目録改訂2版」藤巻裕蔵、帯広畜産大学野生動物管理理学研究室 2000
「野鳥ブックス2 フィールドガイド日本の野鳥」高野伸二・谷口高司・森岡照明・叶内拓哉、(財)日本野鳥の会 1982 (1994 増補版7刷)
「日本動物大百科 第3巻 鳥類I」日高敏隆監修、平凡社 1996
「図鑑 日本のワシタカ類」森岡照明・叶内拓哉・川田隆・山形則男、文一総合出版 1995
「名前といわれ 日本の野鳥図鑑① 野山の鳥」国松俊英、偕成社 1995

「図説 日本鳥名由来事典」菅原浩・柿澤亮三 編著、柏書房 1993

「増補改訂版 日本鳥類大図鑑 Vol. II」清棲幸保、講談社 1978
「Handbook of the Birds of Europe, the Middle East and North Africa—The Birds of the Western Palearctic Vol. II」S. Cramp & K. E. L. Simmons (eds.), Oxford Univ. Press 1980

米川洋 (1987) 日本ハヤブサ物語. アニマ、172 : 82-84.

米川洋・立山敬之 (1985) FALCO REPORT Ver2. 1.

池田善英・井上陽一・須藤一成・夜久保徳・安田亘之・久保上宗次郎・遠間真弓 (1990) 若狭湾における営巣ハヤブサの狩猟行動と給餌行動. Strix、9 : 15-22.

魚類

底生動物

爬虫類
両生類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類
ワシタカ類